

**福島県立医科大学助産師養成施設整備事業 基本・実施設計業務  
公募型プロポーザル審査委員会 審査講評**

**1. 審査経過**

本施設の整備事業基本・実施設計委託業務に係る公募型プロポーザルでは、各分野6名の審査委員から構成された審査委員会により、募集要領の策定から最終審査に至るまで、慎重かつ厳正な審査を行った。

なお、審査の公平性を保つため、提案者名等については最後まで伏せたままで審査を行い、結果が確定後に提案者名を開示した。

(1) 第1回審査委員会

日程：令和元年10月24日（木）

場所：福島県立医科大学8号館（福島市）

議事：委員長、副委員長の選出、本施設に係る基本構想等の確認、公募型プロポーザルの公告・募集要領、審査スケジュール等の協議を行った。

(2) 第2回審査委員会

日程：令和2年1月21日（火）

場所：ラコパふくしま（福島市）

議事：18件の提案書について第一次審査を行い、評価が高かった6者をヒアリング対象者とした。

(3) 第3回審査委員会

日程：令和2年2月29日（土）

場所：ホテル福島グリーンパレス（福島市）

議事：第2回審査委員会にてヒアリング対象とした6者に対して、受付番号順に1者あたり発表10分、質疑20分で第二次審査（ヒアリング審査）を行った。

その後、審査委員による投票と協議を踏まえ、全会一致により最優秀（設計委託候補者）1者及び次点1者を決定した。

**2. 審査結果**

最優秀（設計受託候補者）：株式会社ティ・アール建築アトリエ

次点：有限会社辺見設計

### 3 講評

#### (1) 全体講評

本プロポーザルでは助産師を養成する施設として多様な学習環境を整えることはもちろん、福島県立医科大学の他学部の学生や医療現場の最前線で働く助産師、母子保健に関心が高い一般県民など、様々な人々との交流により、地域とともに育てる環境を実現するための技術提案を求めた。

併せて、省エネルギー技術や再生可能エネルギーの活用による建物のZEB化等、イニシャルコスト・ランニングコストの低減及びメンテナンスの効率化についても検討を求めた。

総じて、提案者に対して高い総合力を求める提案課題とした。

ヒアリングを要請した提案者から提示された内容は、いずれも新たな助産師養成のための教育環境創出への期待を感じさせるものであり、学生や教員等の目線に立ったゾーニングや、施設利用者間の活発な交流を促す狙いや仕掛けが感じられるものであった。

また、省エネルギー対策等の難しいコスト低減要求に対して、意欲的かつ真摯に取り組まれたことが、提案書やプレゼンテーションから読み取ることができた。限られた期間の中で、密度の高い提案をされた関係各位に対して、心から敬意を表する。

評価を分けるポイントとなったのは、助産師教育への理解の深度と建築計画への反映、実現性、さらには自社の提案内容への思いの強さであった。設計者を選定するというプロポーザルの性質上、今後の設計業務における発注者との協働が不可欠となることからその適性を見極めることも重要となった。

最優秀の提案はいずれの課題についても熟慮され、助産師教育への思いを基に組み上げられているとともに、隣接する建物や敷地全体、立地する環境について、俯瞰した視点から計画されており、総合力の高さを感じさせるものであった。

#### (2) 個別講評

##### ◇最優秀：受付番号10 株式会社ティ・アール建築アトリエ

本提案は、「全ての女性が共に学ぶことができるケアcommons」をテーマとしており、様々な人たちの拠点機能から、必要な諸室・ラウンジ等が配置されていた。シンプルな平面計画ながらも既存建物との連携や利用者視点の計画は巧みで、実現性も高く運用・管理面からも妥当性のある計画と判断した。

中央のライトウェルや角を無くした柔らかなデザイン、立地場所を生かしたラウンジの配置など随所に施設利用者を意識した提案が散りばめられる一方で、コストバランスと詳細なシミュレーションに基づいた“ZEB Ready”など、実現性の高い提案内容も多かった。プレゼンテーションでは、助産師教育への強い思いが伝わり、今後の設計を共に進めていく上で審査委員に安心感を与えるものであった。当提案者であれば発注者との密接なコミュニケーションのもとに確実に提案内容を深化

できると見込まれ、高い評価を得ることとなった。

一方で、独創性という観点からはインパクトに欠ける印象もあった。提案された計画は丁寧に行わなければ平凡な施設環境になってしまう懸念もある。今後は学生や教員等とのワークショップなど幅広く丁寧な意見交換を通じて、現在の計画をさらに磨き上げ、より魅力的な設計内容にすることを強く期待する。

#### ◇次点：受付番号6 有限会社辺見設計

本提案は、「実習室を核とした助産師養成施設」をテーマとしており、助産師教育への深い理解を基に、中央に配置した可変性の高い実習室は高く評価された。8号館からの渡り廊下の有効活用やマザールーフによる溜まり空間の創出も提案者のアイデアの豊かさを感じさせた。

一方で、コネクトブリッジや実習室における可動間仕切りの運用等の実現性については課題が残り、具体的に設計を進め、現実的対応をしていく中で提案内容が持つ長所が薄れていってしまう懸念が拭えなかった。

提案者の豊富なアイデアと助産師教育への理解の深さ、チーム力を感じさせたプレゼンテーションは高く評価されたが、総合的には最優秀案に及ばず次点者となった。

(以下、受付番号順)

#### ◇受付番号4 有限会社大野建築設計事務所

本提案は、「交流と自立学習」をテーマとしており、明るいアトリウムを介した交流の誘発やセキュリティの確保の点で秀でた提案であった。提案者の中で唯一、バス停からのアプローチに関する提案なども提案するなど、視野の広さも感じられた。

一方で、ワークショップの進め方やダブルスキン採用に伴うイニシャルコスト、空調に係るランニングコストへの考え方については、ヒアリングにおいて具体性を欠く回答が多く、検討内容の深度を推し量ることができなかった。

#### ◇受付番号8 エーユーエム構造設計株式会社

本提案は、「助産師の養成を通じて、未来の子どもたちを守る」というテーマが設定されていた。諸室のゾーニングや回遊性と自由度の高い2階フロア等、全体的に要所を押さえたバランスの良い提案であるとともに、地域との交流拠点に「コミュニティキッチン」という独創的な機能を取り入れたことが印象的であった。

一方で、看護学部棟との結節点の考え方等に説得性を欠いた印象があり、外観デザインや省エネ対策でも具体性が不足していた。吹抜け空間の多用で生じる空調コストや、中庭の設えに対するイメージも審査委員で共有できなかった。

#### ◇受付番号12 株式会社山口建築設計事務所

本提案は、「柔らかな光に包まれた交流の学び舎」をテーマとしており、主に建築的な視点から、各項目ともに高いレベルの考察が行われていた。施設利用者の動線として、東西方向に南北方向を加えた提案は興味深い視点であった。

一方で、意匠デザインや空間構成に焦点を当てすぎた印象が強く、助産師教育に係る提案者の考えが伝わらなかった。また、設計体制の役割分担に不明瞭な点があり、提案者の意欲や主体性にも懸念が持たれた。

#### ◇受付番号16 株式会社白井設計

本提案は、施設中央の未来ホールを交流拠点とする明快なゾーニングと、隣接する既存施設との一体性を意識したもので、魅力的な空間をつくり上げていた。学生の特性を十分理解して交流のあり方を提案し、木質空間についても温かみを感じられた。

一方で、プレゼンテーションからはチーム力が伝わらず、今後の発注者との協働に向けて不安を感じさせるものであった。また、助産師教育への思いと提案内容が必ずしも一致していない印象もあり、高い評価にはつながらなかった。

### (3) まとめ

助産師は、地域に根差し、女性のライフサイクルに寄り添い支えることのできる、唯一の存在である。今回のプロポーザルを通じて選定された提案者には、学生や教員はもちろん、小さな子どもを持つ母親や地域住民など、幅広い分野の方々との対話を重ね、設計に反映することで、福島県立医科大学が担う助産師の養成を建築の側面から支援してくれることを望む。

助産学分野において、大学別科と修士課程という2つの課程を設置し、学び舎を新設する本計画は国内でも希有な事例である。その意味でも大きな注目を浴びるものであろう。この施設から多くの助産師が巣立ち、福島県が国内に誇れる「日本一安心して子どもを生み育てられる県」になることを心より期待する。

最後に、当審査委員会が掲げた提案課題に対して真摯に向き合い、自由な発想で多様なアイデアを寄せていただいた18者に対し、審査委員一同、心より感謝と敬意を申し上げます。

令和2年4月17日

#### 福島県立医科大学助産師養成施設整備事業

##### 基本・実施設計委託業務 公募型プロポーザル審査委員会

委員長：石井 敏（東北工業大学建築学部建築学科教授）

副委員長：浦部 智義（日本大学工学部建築学科教授）

委員：今野 静（公益社団法人福島県看護協会会長）

委員：太田 操（福島県立医科大学助産師養成課程設置準備室長・教授）

委員：熊谷 光彦（福島県医療人材対策室長）

委員：渡邊 佳文（福島県営繕課長）

※ 県職員は第3回審査委員会時点の委員名を記載しています。